

ミクロ経済学
演習2020
第9回
(July/6)

・ 2020年7月3日の札幌市（札幌
駅の38階展望台から）



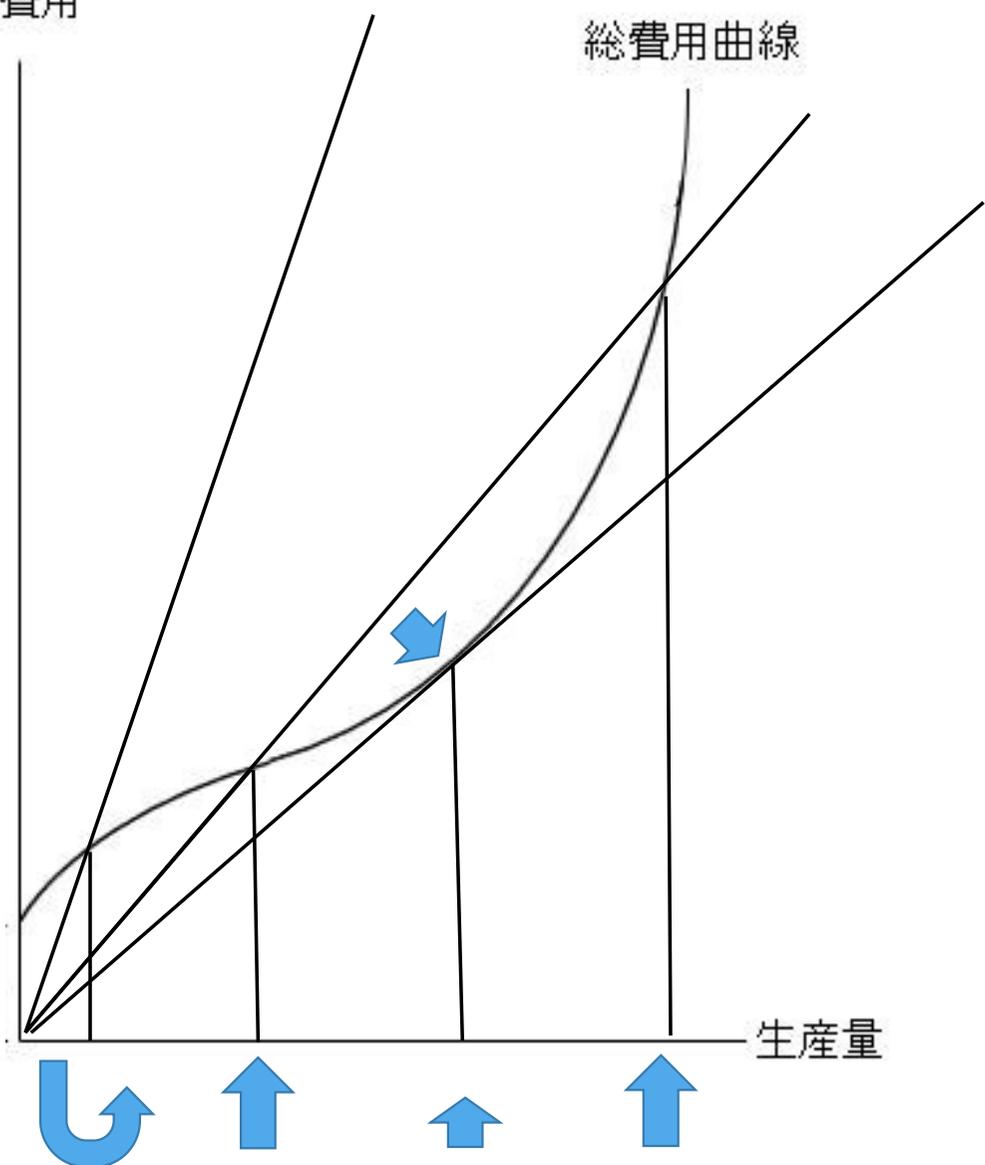
本日のコンテンツ

1（前半）：平均費用（・・・主に先々週の話し）の簡単な復習

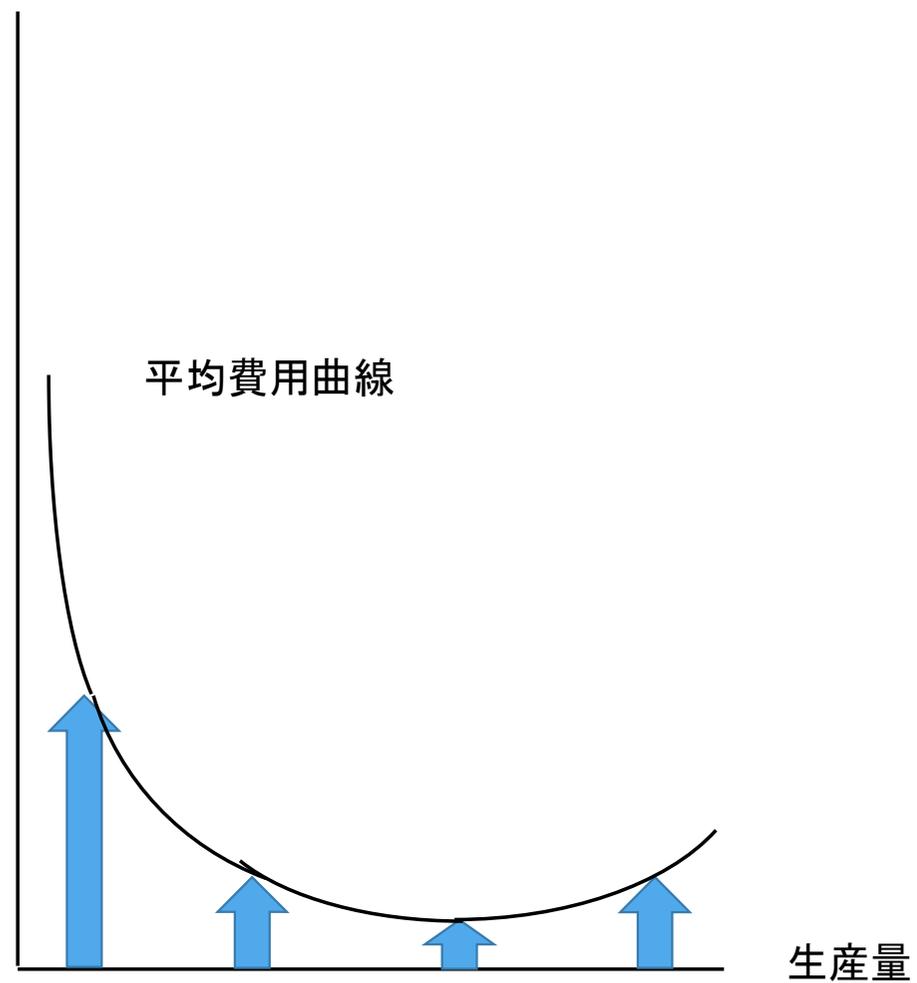
限界費用の復習（・・・先週の話しの繰り返し復習）

2（後半）：限界費用曲線

總費用



平均費用



総費用

総費用曲線

この差（総費用の差）が、
この増やす1個にかかる費用、
この増やす1個がもたらす費用
つまり限界費用

なので、限界費用というのは
実は「差」

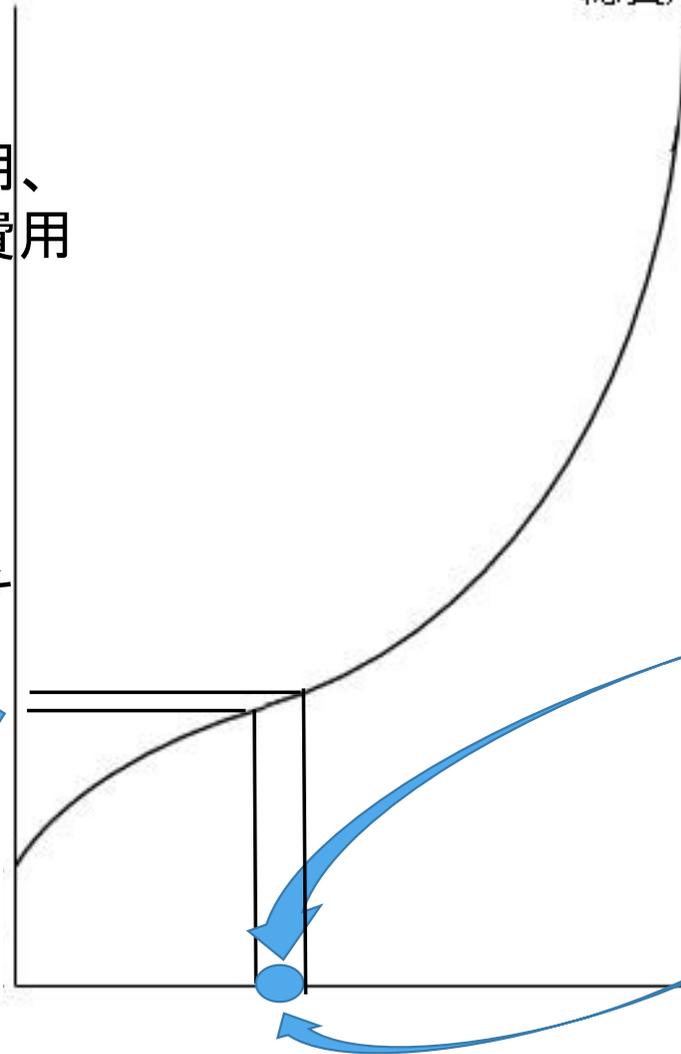
（引き算して出すのが本来）

その時の総費用はこれだけ

その時の総費用は
これだけ

この1個をつくらなければ
この1個も作る事になったら

生産量



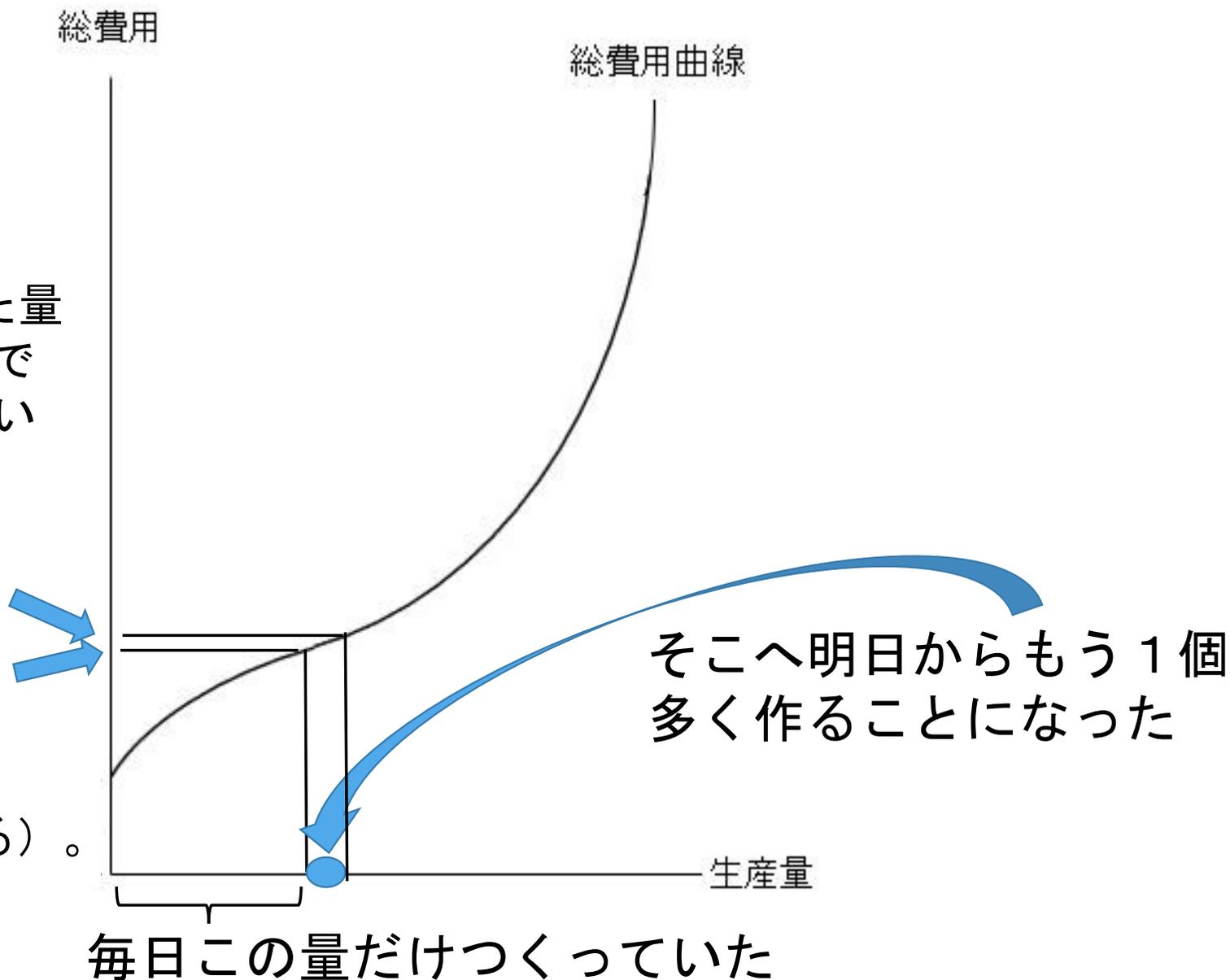
限界費用の イメージ (1)

そうすると、

1) これまで作っていた量を
今までより短い時間で
つくらなくてはならない
(負担がかかる)

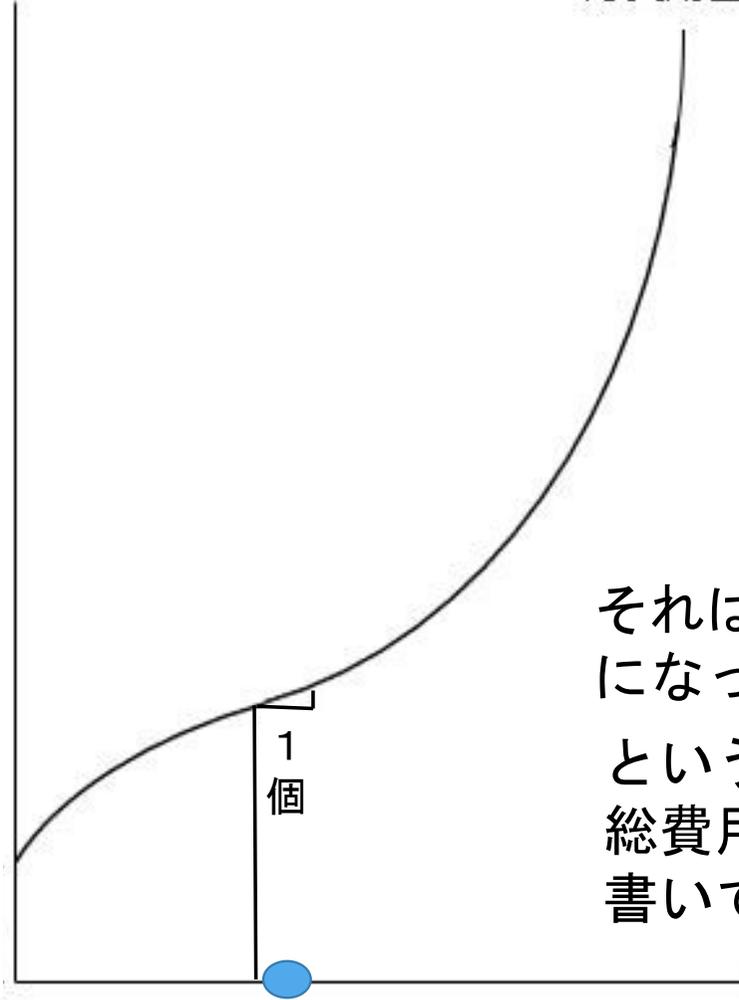
+

2) そこからさらに、
ラストスパートで
この1個を作らなくては
ならない (負担がかかる)。



総費用

総費用曲線



総費用曲線の傾き
(横に1行ったら
いくら高くなるか)
を測れば

それはちょうど限界費用の大きさ
になっているじゃないか！

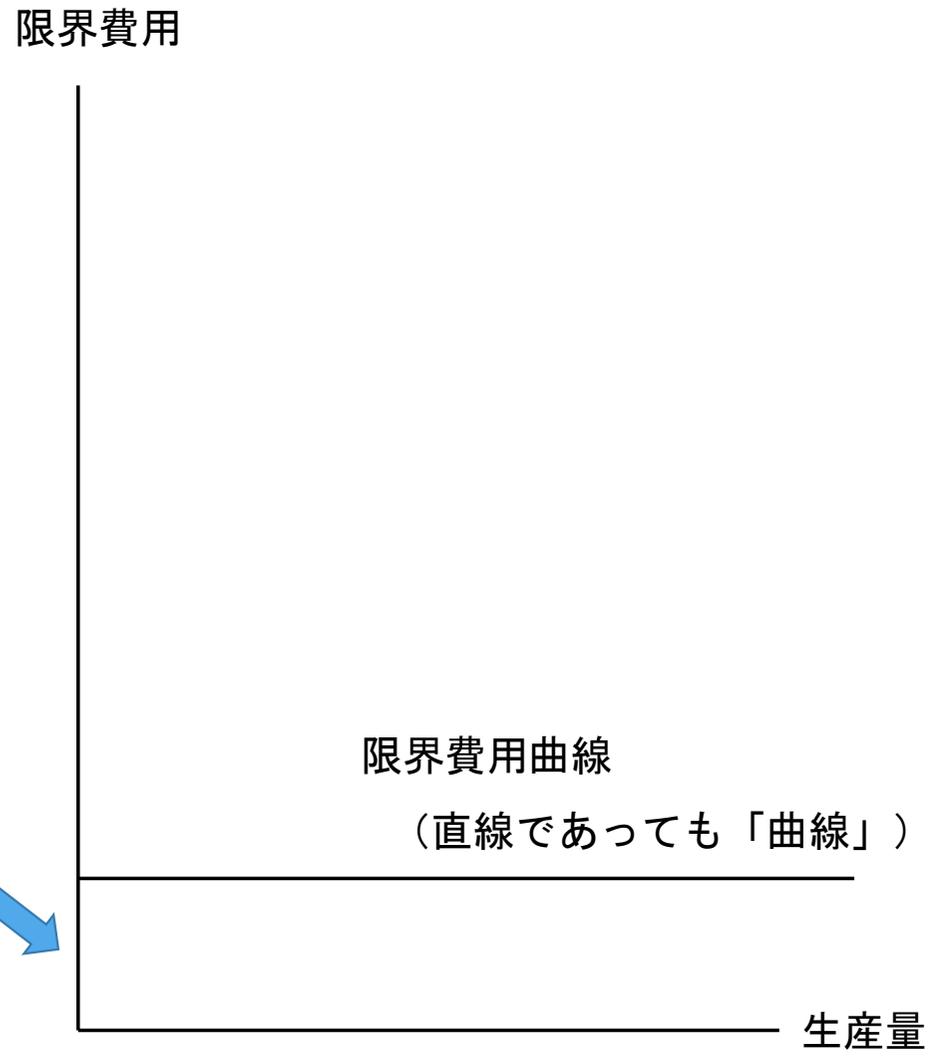
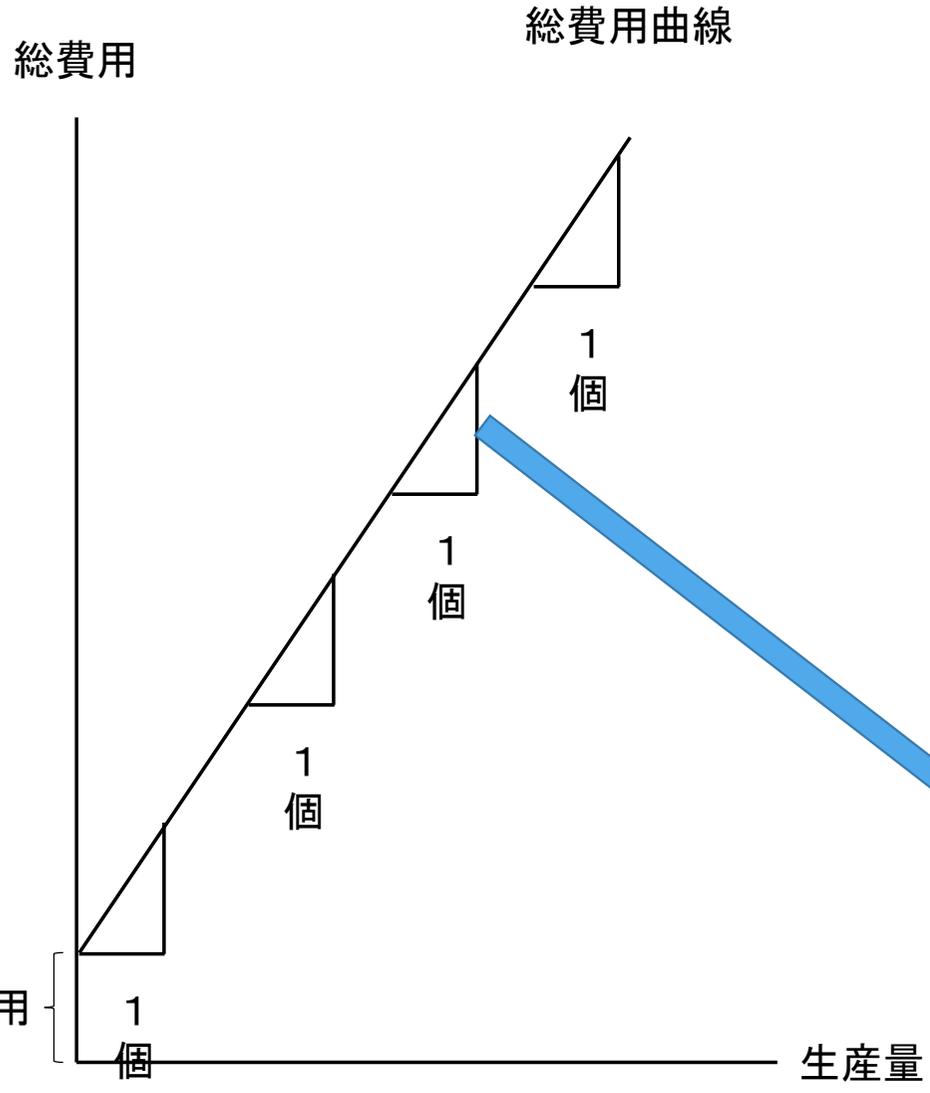
ということから「限界費用とは
総費用曲線の傾きである」と
書いてある教科書もある。

生産量

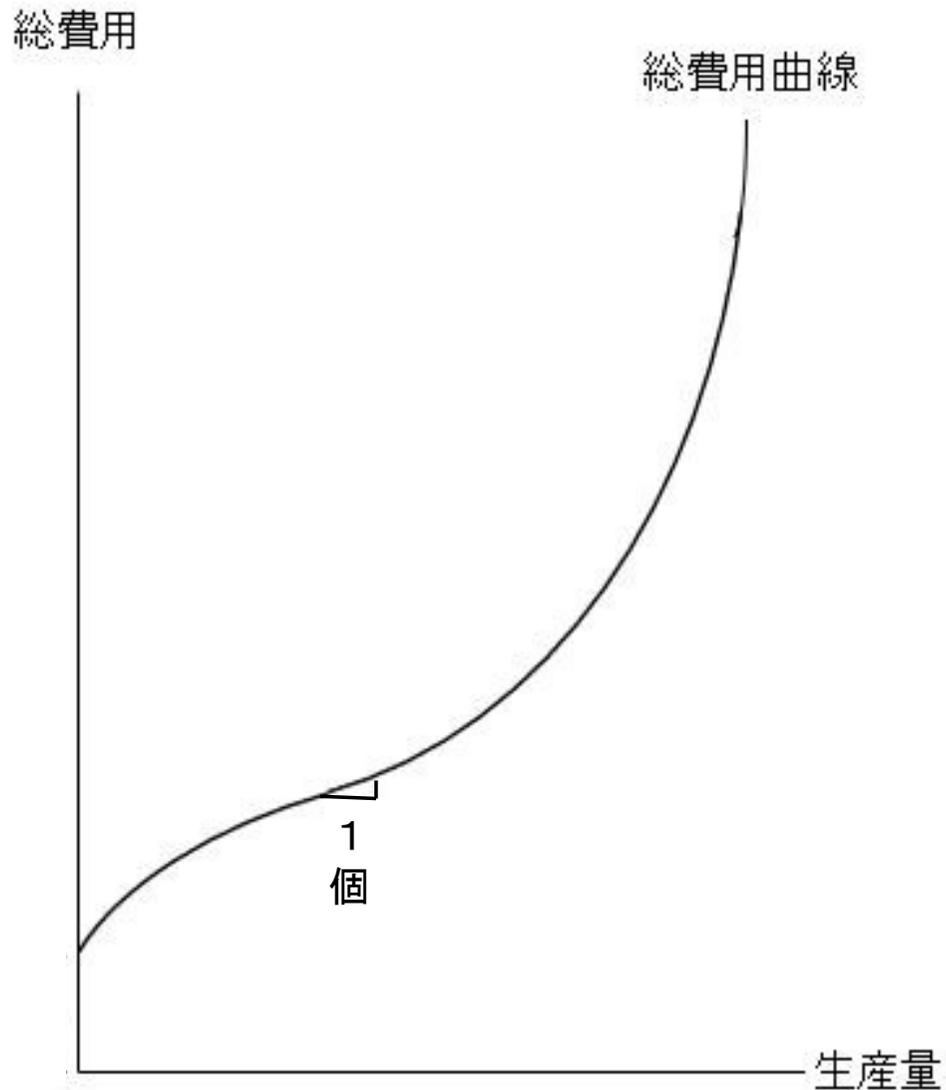
けれど限界費用とは本当は
「差」(引き算)

総費用曲線がこうであるなら・・・

限界費用曲線は



じゃあ、普通の
総費用曲線の場合は
限界費用の大きさは
どんなふうになるか？

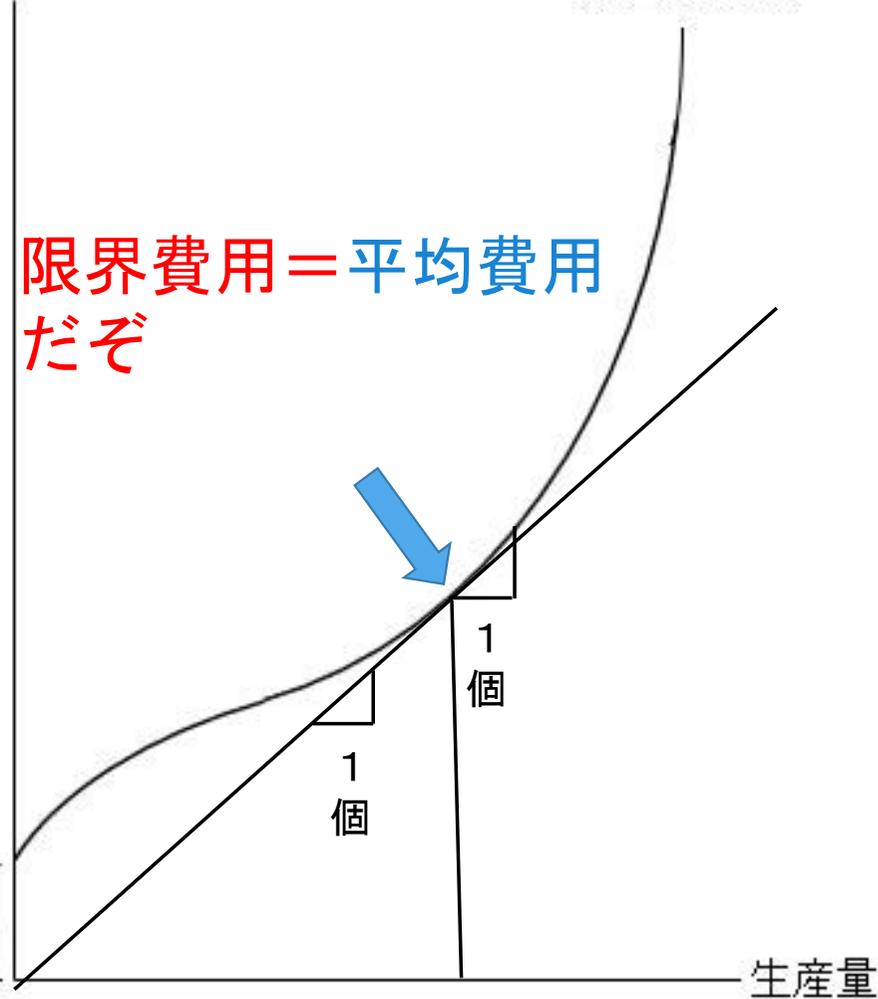


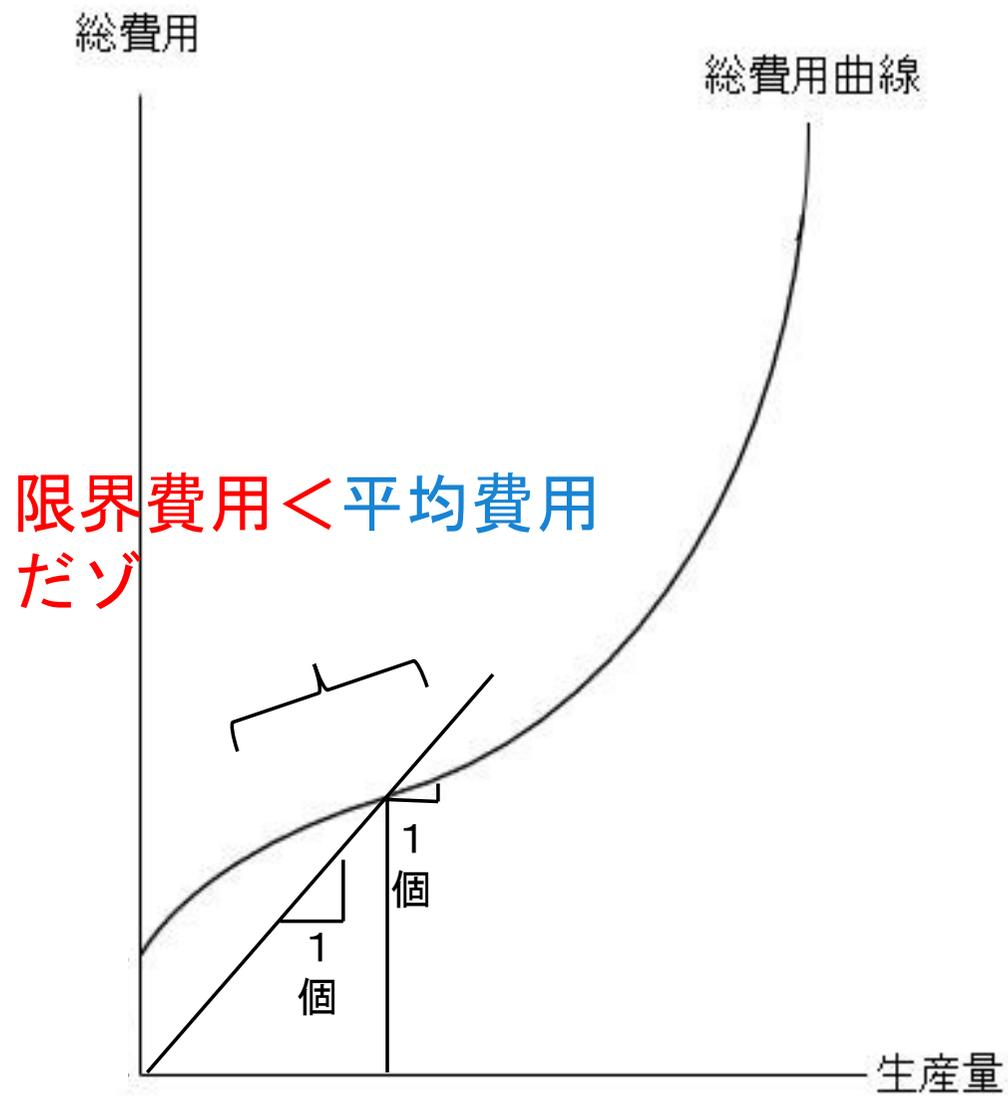
= 普段つくっている量

総費用

総費用曲線

限界費用 = 平均費用
だぞ

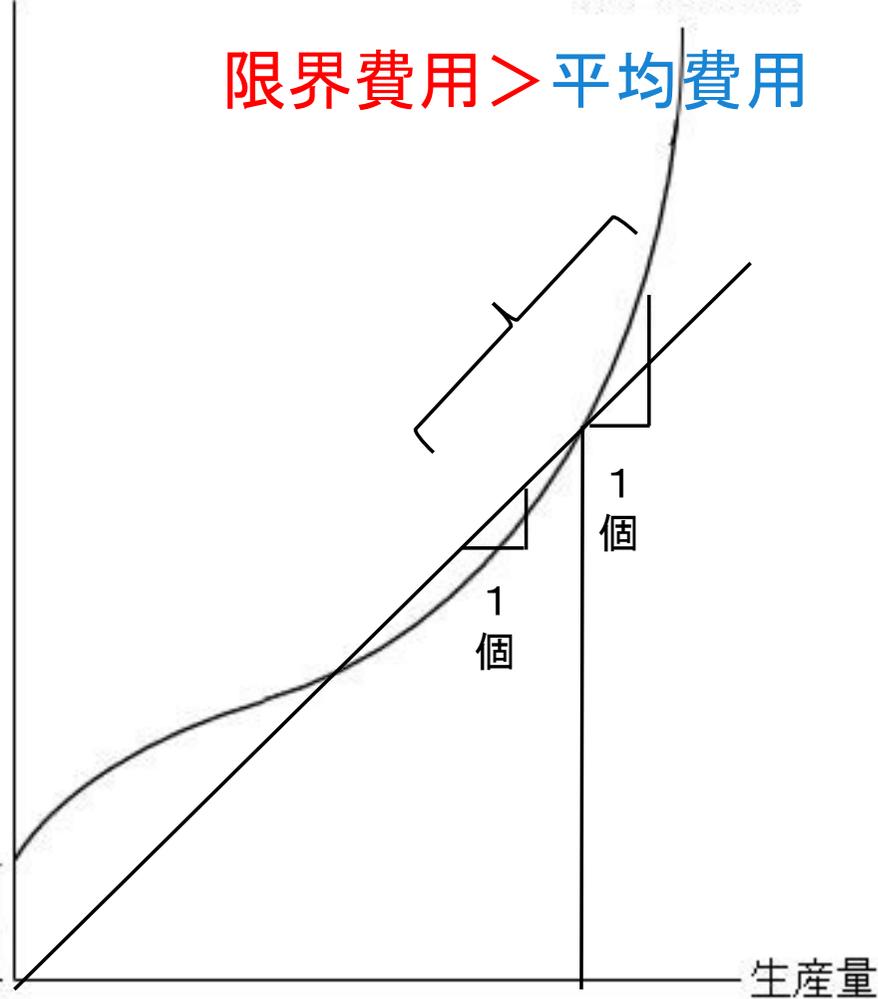




總費用

總費用曲線

限界費用 > 平均費用



総費用

総費用曲線

限界費用 = 平均費用

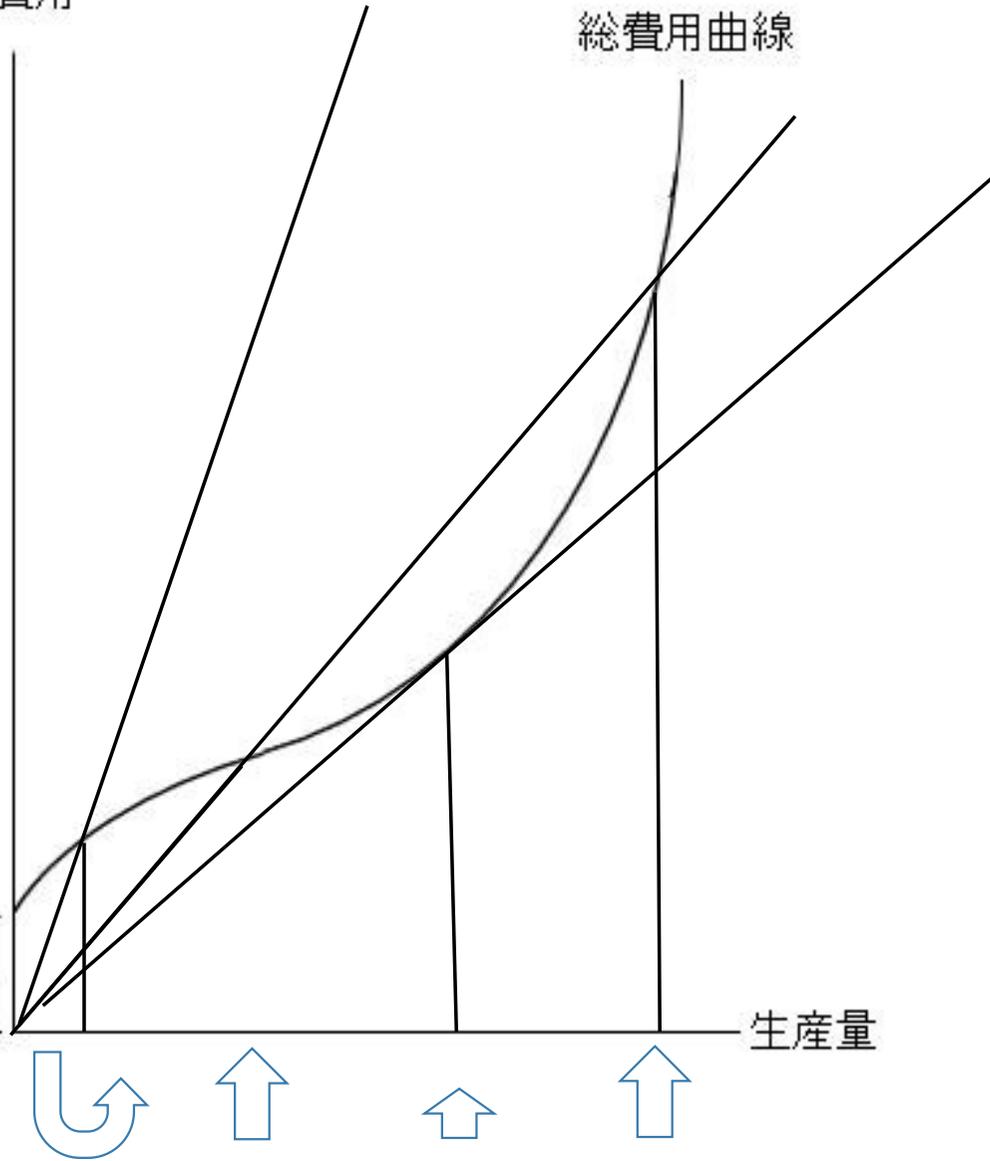
限界費用 > 平均費用
(傾き > 原点から見上げる
ときの角度)

生産量

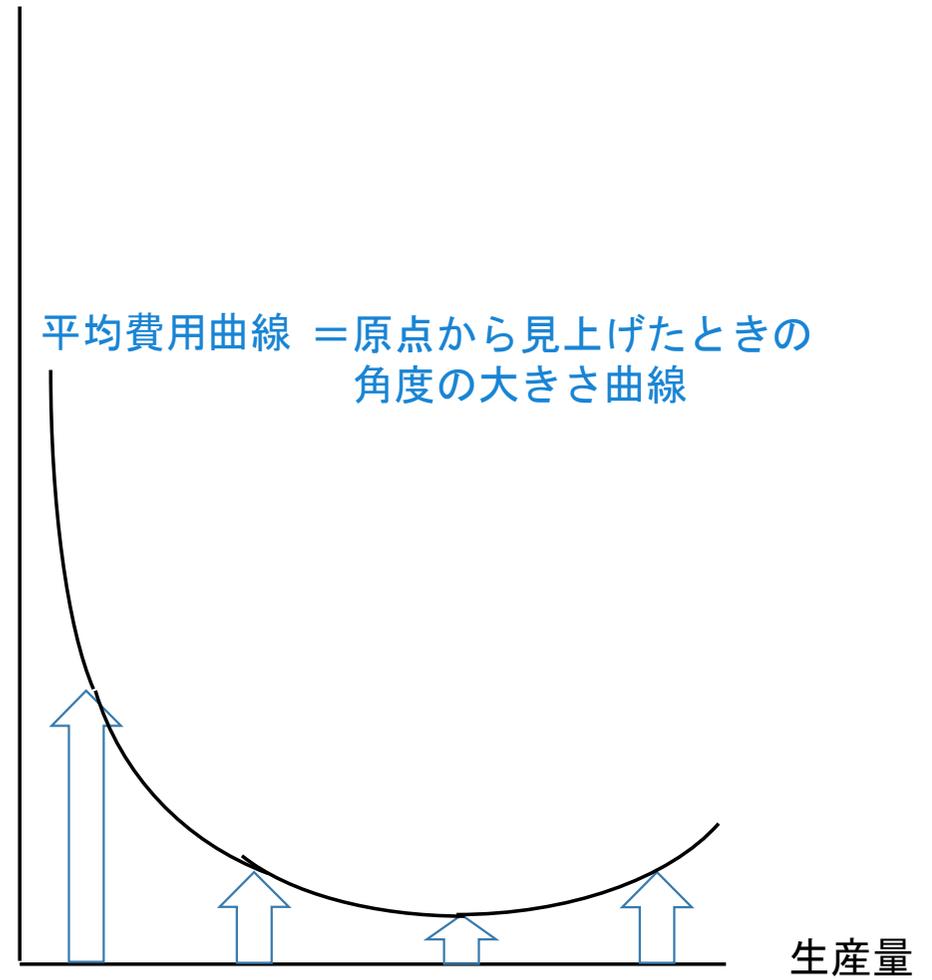
限界費用 (傾き) < 平均費用 (見上げる角度)



総費用



平均費用 (見上げる角度)



総費用

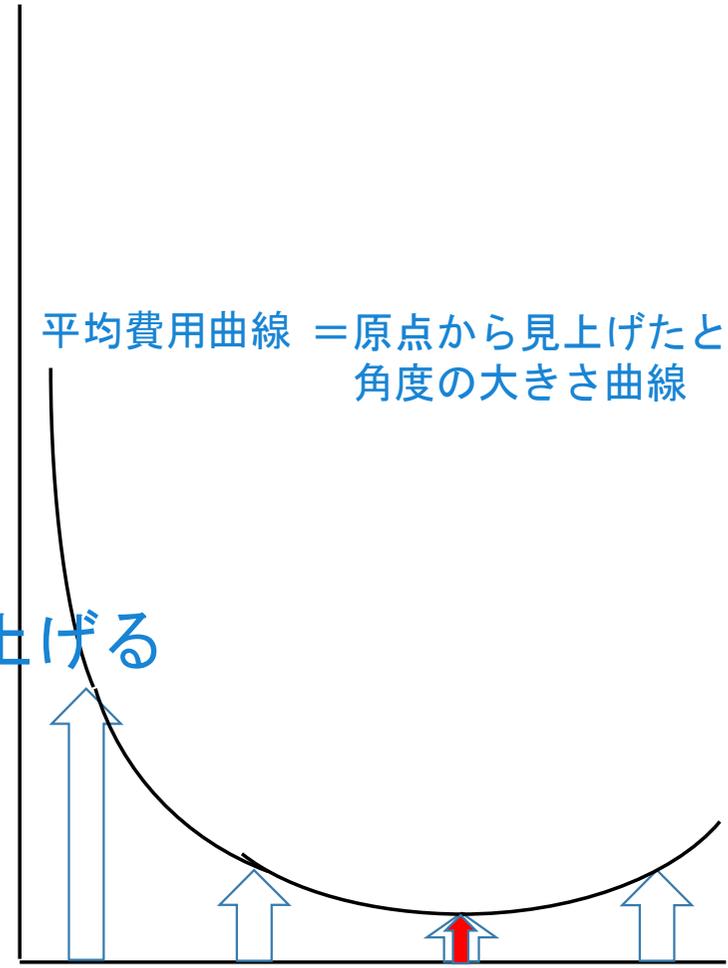
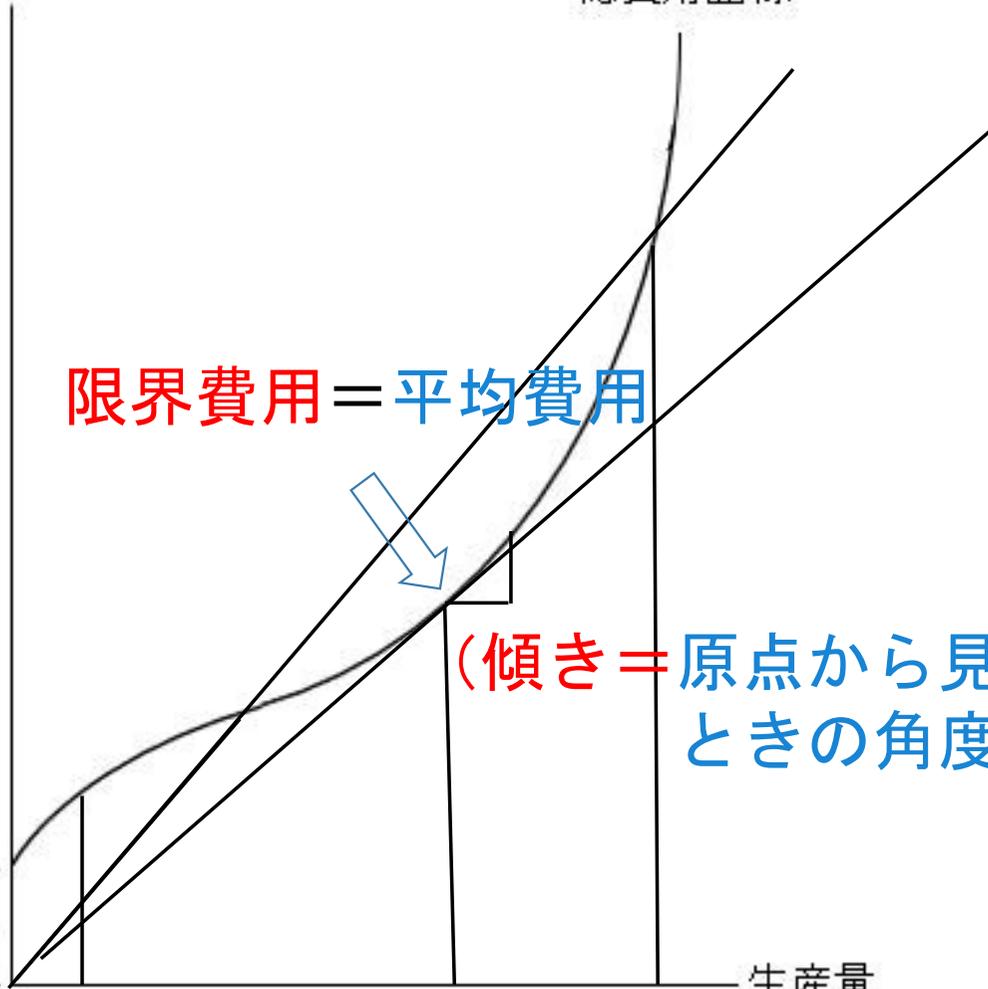
総費用曲線

平均費用（見上げる角度）

限界費用 = 平均費用

平均費用曲線 = 原点から見上げたときの
角度の大きさ曲線

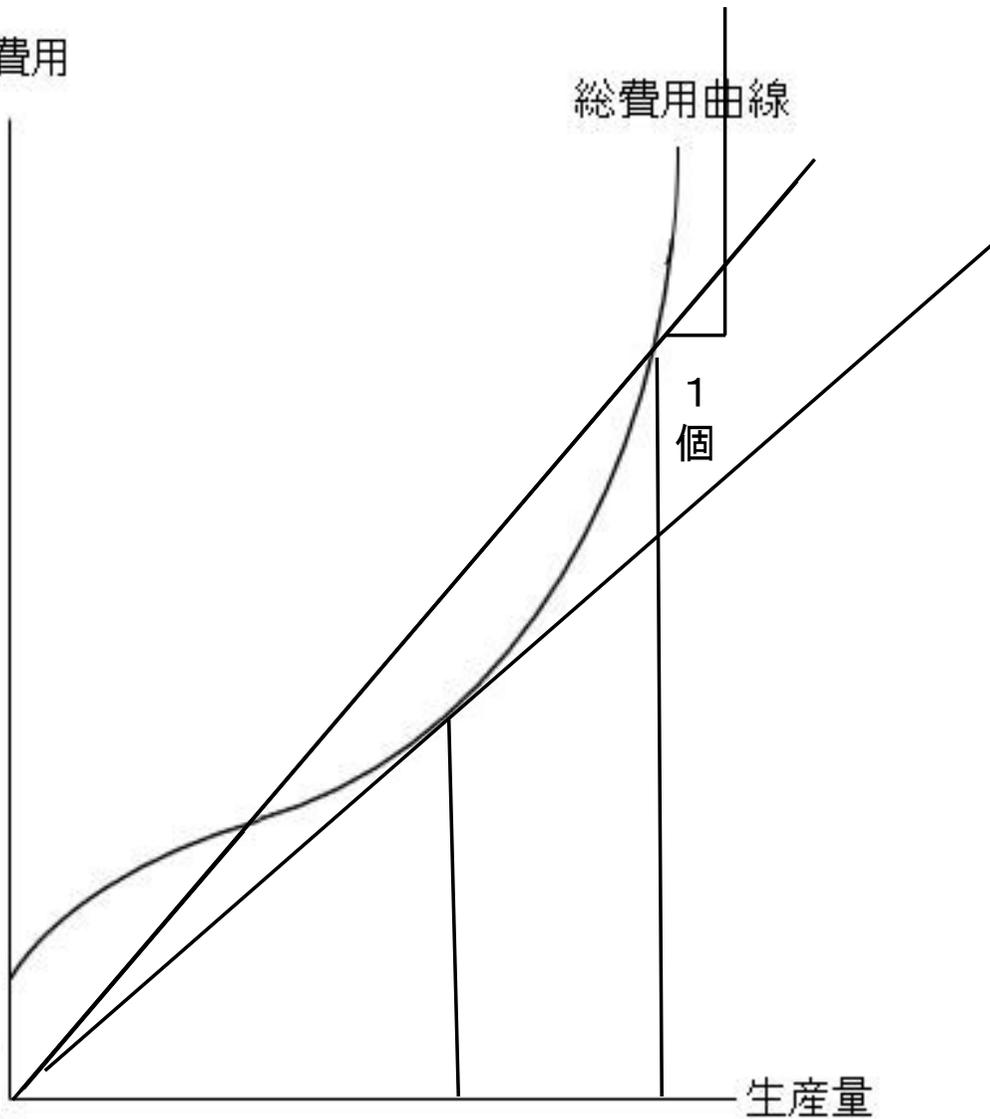
(傾き = 原点から見上げる
ときの角度)



生産量

生産量

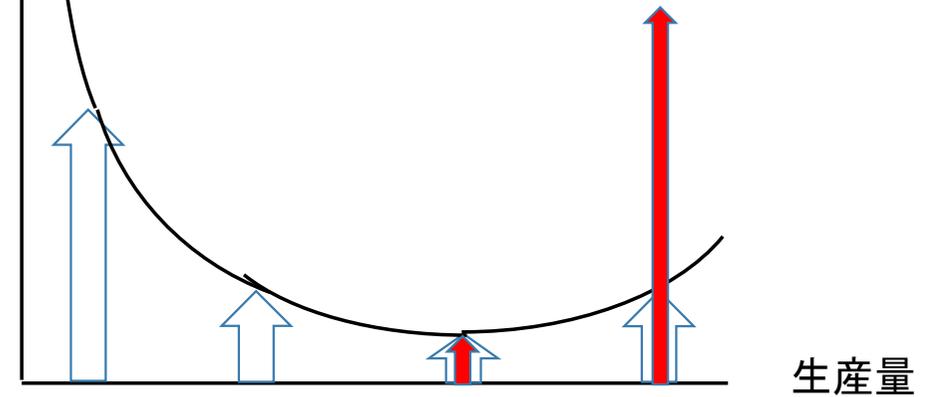
総費用



平均費用 (見上げる角度)

限界費用 > 平均費用

平均費用曲線 = 原点から見上げたときの
角度の大きさ曲線

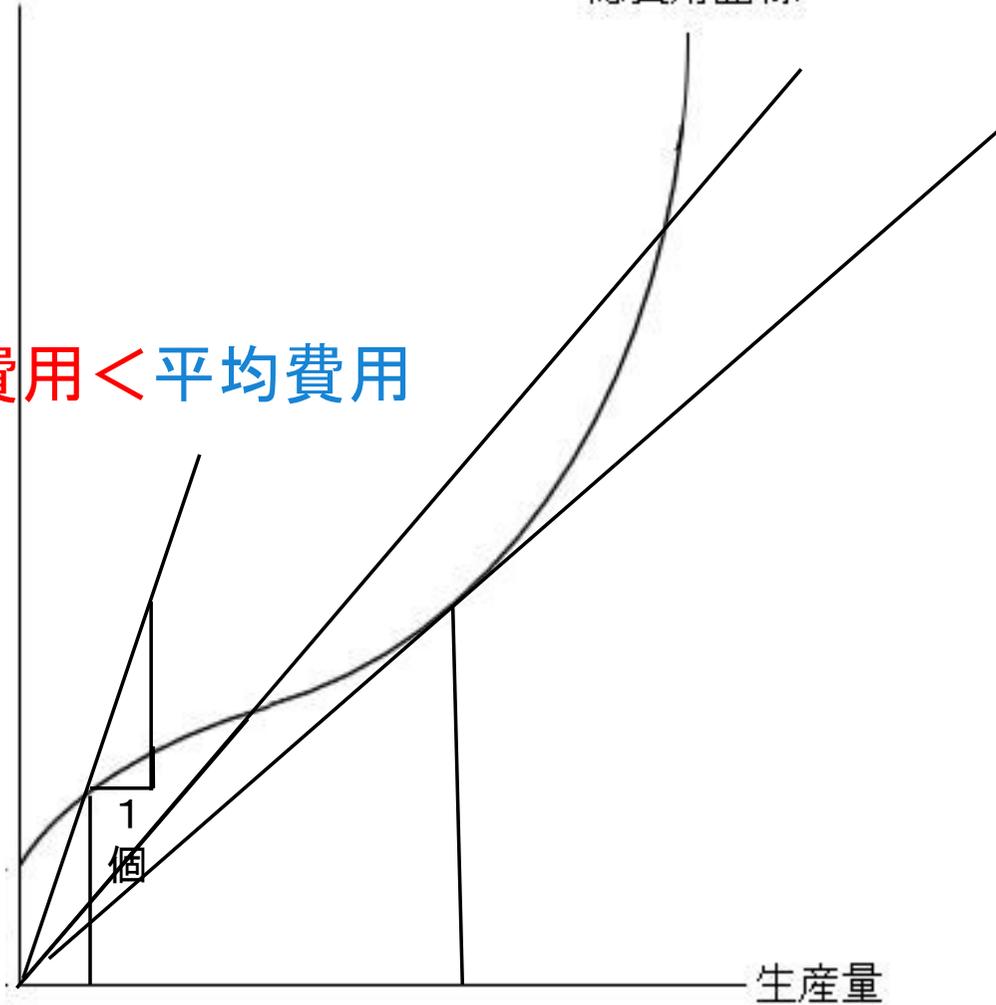


総費用

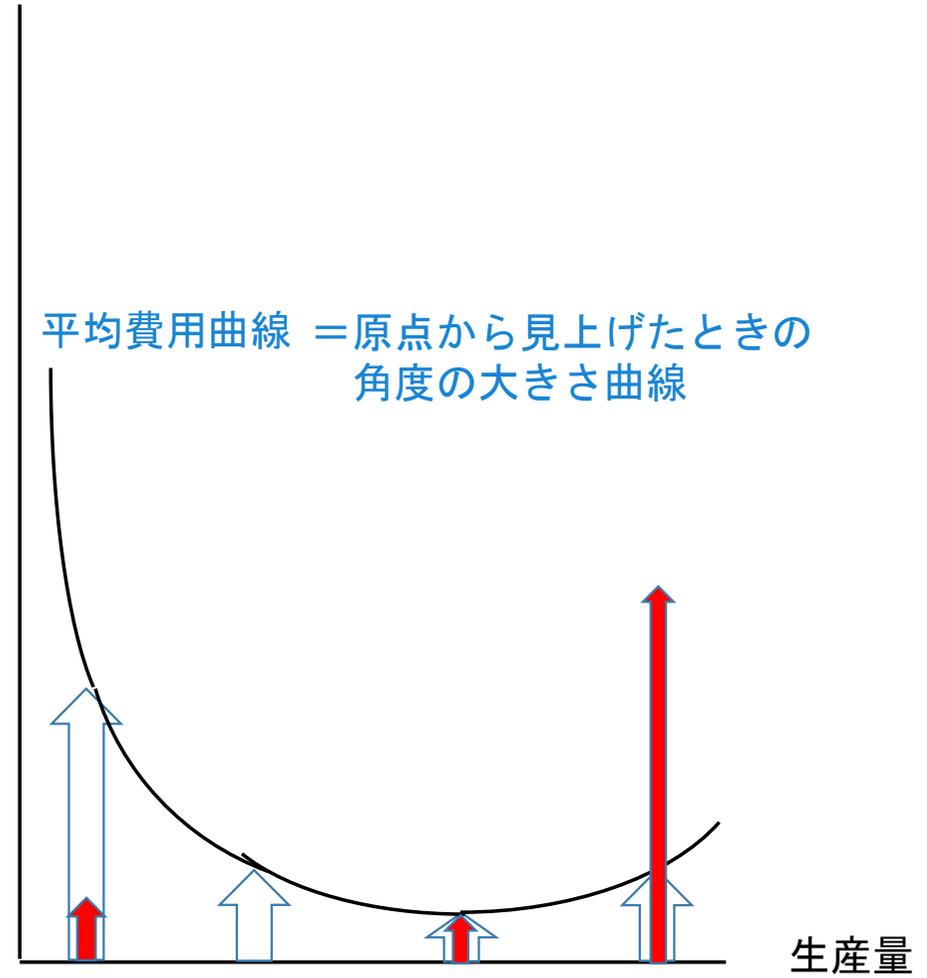
総費用曲線

平均費用（見上げる角度）

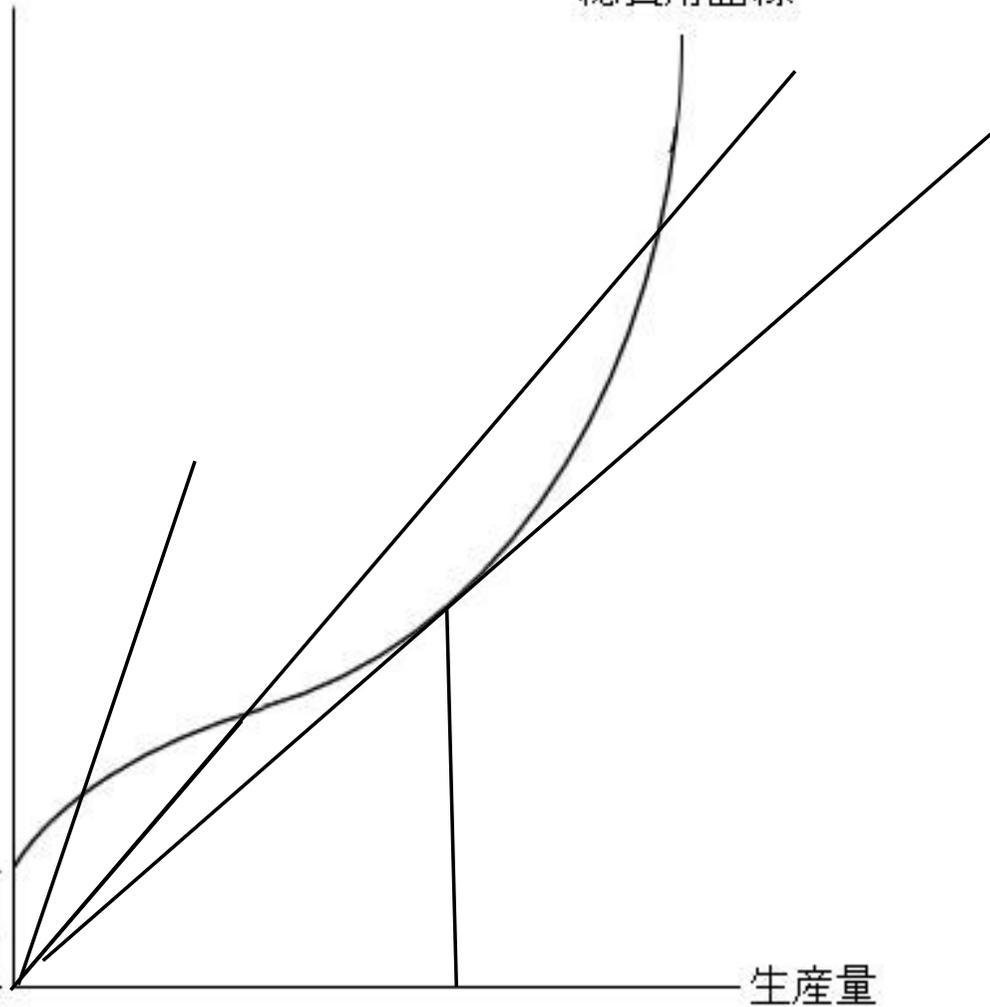
限界費用 < 平均費用



平均費用曲線 = 原点から見上げたときの
角度の大きさ曲線



総費用



平均費用 (見上げる角度)

